

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立泉が丘中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 215 人

② 数学 215 人

5 留意事項

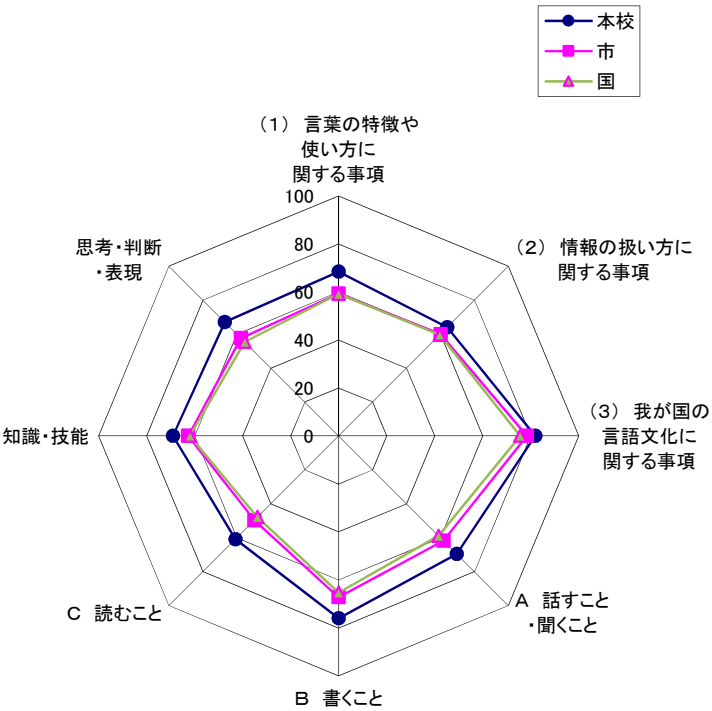
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.4	59.3	59.2
	(2) 情報の扱い方にに関する事項	64.0	60.0	59.6
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.9	78.4	75.6
	A 話すこと・聞くこと	69.5	61.8	58.8
	B 書くこと	76.0	67.2	65.3
	C 読むこと	60.9	49.7	47.9
観点	知識・技能	69.1	62.7	62.0
	思考・判断・表現	67.1	57.6	55.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

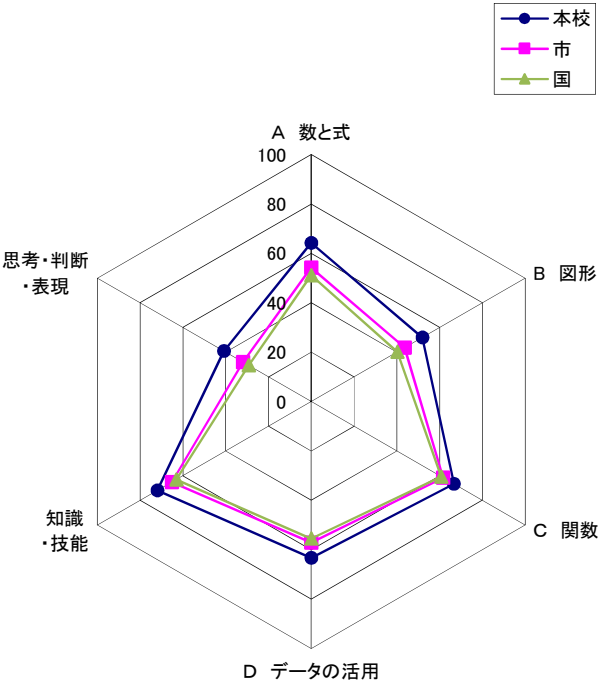
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○すべての設問で正答率が全国平均を上回っている。 ○文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる設問では、全国平均を10.4ポイント上回っている。 ○文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる設問では、全国平均を8.4ポイント上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 基礎的・基本的な語句を正しく使えるよう、ワークシートやノートを書く活動の中で日常的に指導していく。また定期的な確認テストを実施して定着を図っていく。
(2) 情報の扱い方にに関する事項	○すべての設問で正答率が全国平均を上回っている。 ○具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる設問では、全国平均を5.9ポイント上回っている。	教科書などの文章を読む際、展開や構成の流れ、意味段落の役割などを確認する学習活動を取り入れていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○行書の特徴を理解しているかどうかをみる設問では、正答率が全国平均を6.3ポイント上回っている。	古典の授業においては歴史的仮名遣いの読み、助詞の省略、係り結びなど、基礎的な知識を身に付けられるよう、音読を多く取り入れていく。
A 話すこと・聞くこと	○すべての設問で正答率が全国平均を上回っている。 ○話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問では、全国平均を12.5ポイント上回っている。	グループでの話合い活動などにおいて、目的や場面に応じて質問する内容を検討することや、知りたい情報に合わせて効果的に質問することを意識するよう指導していく。
B 書くこと	○すべての設問で正答率が全国平均を上回っている。 ○表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる設問では、全国平均を17.7ポイント上回っている。	文章を書く場面において、読み手の立場に立ってより分かりやすい文章を書くという意図を明確にして、構成を考えたり推敲したりする活動を取り入れる。
C 読むこと	○すべての設問で正答率が全国平均を上回っている。 ○目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる設問では、全国平均を16.9ポイント上回っている。	文章を読む場面において、文章の要点を押さえたり簡潔な言葉でまとめたりする活動を行う。また、表現の工夫に気づいたり、実際に自分でも表現の工夫を取り入れて文章を書いたりする活動を取り入れる。

宇都宮市立泉が丘中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	64.2	54.2	51.1
	B 図形	51.9	43.6	40.3
	C 関数	66.7	61.7	60.7
	D データの活用	63.3	57.1	55.5
観点	知識・技能	72.0	65.2	63.1
	思考・判断・表現	40.9	31.9	29.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○平均正答率は、全国の平均よりも13.2ポイント高い。すべての設問において、平均正答率は全国の平均より上回っている。 ○等式の変形や式の意味を理解し、説明することがよくできている。計算力が身につけている生徒や、事象を数学的にとらえ、文章に表せる生徒が多い。	・今後も、基本的な計算の定着に向けた練習を継続するとともに、生徒の状況に応じて、複雑な問題を解決する力も身に付けられるよう、個に応じた指導の充実を図る。 ・グループでの話し合い活動を取り入れ、答えまでの手順や考え方などを説明する場面を設定し、自分だけでなく他の考え方を聞き、多角的な思考を身に付けさせる。
B 図形	○平均正答率は、全国の平均よりも11.6ポイント高い。すべての設問において、平均正答率は全国の平均より上回っている。 ○三角形の合同を証明する設問では、全国よりも17ポイント上回っている。条件や書き方を丁寧に扱った成果だと考えられる。	・今後も補充問題を多く取り入れ、知識の定着を図る。 ・図形においては、ICTを活用し、図形の見え方の変化などの理解を深める活動を取り入れる。 ・証明や説明をする問題では、手順だけでなく、証明完了までの筋道を立てることに注力させ、見通しを立てることの大切さを理解させる。
C 関数	○平均正答率は、全国の平均より6ポイント上回っている。すべての設問において、平均正答率は上回っている。 ○一次関数のグラフについての設問では、全国よりも11ポイント上回っている。変化の割合の意味や、グラフと式と票の関係を丁寧に扱った結果だと考えられる。	・今後も、実際にグラフをかかせたり、グラフの特徴やグラフから読み取れることを説明させたりする活動を通して、関数の知識と理解を深めさせる。 ・「自分がどのように解いたか」発表させたり、グループ活動や言語活動を多く取り入れたりと、生徒自身が説明する場面を多く設定し、回答の過程に焦点を置いた指導を行う。
D データの活用	○平均正答率は、全国の平均より7.8ポイント上回っている。すべての設問において、平均正答率は上回っている。 ○データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由説明する問題においては、全国の平均正答率を9.9ポイント上回っている。授業でデータを比較する問題を取り上げ、理解した生徒が多かったからであると考えられる。	・今後も、頭で考えるだけでなく、データを可視化し、それを読み取っていく場面を多く取り入れ、理解を深めさせる。 ・定期的に補充問題を取り入れ、復習できる機会を増やしていく。

宇都宮市立泉が丘中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べている」と肯定的に回答した生徒の割合は91.9%であり、食育を通して、体を作るためにしっかり食べることは大切だと学べたからと考える。食に関しては、学校生活のあらゆる場面で、栄養教諭を中心として、学べる工夫がされている。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒が全国・栃木県の結果よりも高く、規則正しい生活をしている生徒が多いということがわかった。

●「自分には、良いところがあると思いますか」に対する問いで、最も肯定的な「当てはまる」の解答は本校46.4%、栃木県42.6%、全国40.4%と良好な回答があった半面、「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」の問いに対しては、最も肯定的な「当てはまる」の回答は本校46.4%、栃木県52.5%、全国44.2%と県平均に比して、本校生徒の肯定的回答率が低かった。生徒本人が「良いところ」と考えている内容と、教師が生徒の「良いところ」と考えている内容に差異がみられる可能性がある。生徒本人の良さや可能性を伸ばすためにも、生徒自身が考える「良さ」を教師側が認識し、積極的に賞賛していく。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対する問いで、最も肯定的な「当てはまる」の解答は本校41.9%、栃木県30.6%、全国28.7%と良好な回答があった。メンタルサポーターや特別支援教育担当の教師も含めて相談しやすい環境ができていることは好ましい状況である。積極的に生徒に向きあい、生徒の相談に真剣に応えていく姿勢は大切にしたいと考える。

○「人が困っている時は助けていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対し、肯定的回答した生徒が県・全国平均を上回った。道徳の授業などを通して、優しさや思いやりが醸成されていると思われる。教師側の言動も生徒に作用するとするなら、生徒指導においてはその指導の場所・発言に気を付けるとともに、いじめにつながるような「いじり」などを行わないように細心の注意を払い、常に優しさをもった言動を心がけていく。

宇都宮市立泉が丘中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
1. 自分の思いや考えを表現できる力の育成に向けた取組	・授業の最後に授業内容の「振り返り」を行うことで、自分の考えをまとめたり、説明したりできる力を付けていく。	・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫していた。」の設問に対する肯定的回答の割合は77.4%で、対県比+8.4ポイント、対全国比+12.6ポイントであった。また、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った。」の設問に対する肯定的回答の割合は82.8%で、対県比+2.9ポイント、対全国比+7.4ポイントであった。
2. 家庭学習の定着に向けた取組	・AIドリル型学習アプリを活用し、家庭学習の充実を図る。	・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」の設問に対する肯定的回答の割合は4.5%で、対県比-0.5ポイント、対全国比-1.6ポイントであった。 ・「学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」の設問に対する肯定的回答の割合は、平時で35.2%、土日で22.6%で、対県比がそれぞれ+4.0ポイント、+5.5ポイント、対全国比がそれぞれ+3.5ポイント、+7.1ポイントであった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の設問に対する肯定的回答の割合が21.7%で、対県比-36.8ポイント、対全国比-42.7ポイントであった。	提供されているアプリを、授業に積極的に取り入れるよう、教職員の意識を高める。	校内で積極的にアプリを使ってワークシートを作成している教職員の事例を紹介するとともに、アプリに困り感を持っている教職員をサポートする体制を整える。